

## 会議報告

会議名称	「元気な入間」まちづくり推進・協働ガイドライン策定会議 第9回会議
開催日時	平成19年7月17日(火) 午後6時00分～7時30分
開催場所	市民活動センター 3階 活動室1
出席委員	渡部直也・鳥山政之・岩崎廣司・太田恵子・北田尚美・亀谷容子・ 齋藤次雄・清水英弥・清水洋行・関谷佳代子・瀧澤良生・中澤 岳・ 原口喜代美・堀夫紗子・文字山恵子  以上15名
欠席委員	岡野 亘・宮岡利幸 アドバイザー 犬塚裕雅
傍聴人	無し
事務局	大野課長・齋藤主幹(司会)・西澤主査
会議の概要 及び 決定事項	<p>1. 開会</p> <p>2. 会長あいさつ</p> <p>3. 議事</p> <p>(1)視察のふりかえり</p> <p>(2)骨子素案作成について</p> <p>(3)その他</p> <p>[主な内容]</p> <p>○渡部会長から、視察を終えてイメージができてきたと思う。入間を振り返ってどうなのか、机上の議論だけでなく今までをまとめていくというターニングポイントになる。</p> <p>○全体討議</p> <p>(1)視察の振り返り(各委員の感想・疑問等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人によってガイドラインの中身が活かされる。杉並区は一緒に悩んでいる。西東京市は入間市に近い。→人がポイントになる。</li> <li>・入間市の地縁組織との関わりは?→今まで地域の活動や行政との連携など良い関係を築いてきた。</li> <li>・杉並区の協働ガイドラインを目指していきたい。窓口の必要性や行政もあたられば帰ってくるものを感じた。市民大学等NPOが行うと違ってくるのではないか。</li> <li>・より良い協働を進めるための指針。ガイドラインは協働により期待される効果を頭におきながら、方向付けを決めるべき。自主的にNPOな</li> </ul>

どの活動が生まれ育つように支援する具体的事業展開が必要。

・杉並区を一気に追っていこうとすると無理があるので、少しずつ進めていかないと。杉並区も行革で逆に後退してしまっている。

・杉並区は「人づくり大学、地域情報サイトを作る」等具体的なものがある。西東京市はあまり人の顔が見えない感じがした。しかし、規模や状況など入間市は西東京市に近いのかなと感じた。

・市民も行政も何かを強く進めたいという意思がないとうまくいかない。行政をうまく使おう。また行政も市民と協働を進めていこうという考えが合致した。ガイドラインは道しるべとして立ち戻って見れるもので良いのではないか。

・ガイドラインは活用されて初めて意味がある。人に知ってもらって活用されないと意味がない。色々なPRを考えた方が良い。

・西東京市は職員向けとのことだが、入間市は独自のことを考えれば。

・段階を踏んでいく。提案制度がどの程度活かされているのか。

→年3件程度で翌年は別の内容で行っていくので大きい事業は厳しいのかなと思う。

→事務事業評価を受けられる—NPO等民間も行政に対して手を上げて事業を取れる。

・杉並区は行政主導になっているよう感じる。NPOの人も行政寄り。行革で立ち止まってしまっている。残念。西東京市は協働している印象が薄い。

・杉並区は色々進んでいるが、戻ってしまった感じがある。入間市と比べて市民活動の弱さがある。入間市は歩き始めたところなのでガイドラインは自分たちが迷ったとき、道しるべとして戻れるものになりたい。

・話が皆、具体的にになり、実際に動いてみるのがとても大事だと感じた。視察の感想等を見てイメージを膨らませていこうと思った。

・杉並区は生涯学習を行っていない。入間市は公民館や自治会というベースがある。生涯学習をベースにした進め方もあるのかなと感じた。

・ガイドラインの実行性を担保するのはとても大変なことだと思う。

・入間市らしいものを作るにあたって、2ヶ所を見れたのはとても良かった。ただ市民と行政との関わりが見えなかった。

## (2)骨子作成について

○鳥山副会長が、運営会議の検討経過を下記のとおり報告した。

・視察を振り返って、杉並区は進みすぎている。

① 西東京市は入間市より遅れている所もあるが、指針を作っている

